

COP14 進展ないまま閉幕(朝日新聞2008/12/14夕刊から)

京都議定書に続く2013年以降の温暖化防止の次期枠組み作りに向け、ポーランドのポズナニで開催されたCOP14は13日、交渉期限である09年末のCOP15までの作業計画などを採択して閉幕した。

温室効果ガスの削減幅など多くの重要議題は持ち越された。

背景

- ①最大の排出国である米国の政権交代によるオバマ次期政権は未発足である。
- ②米国発世界金融危機による景気低迷により国際社会は経済危機への対応に忙しい。
- ③先導的な欧州連合EUも自らの対策をめぐる旧東欧との内部調整に追われた。

次期枠組みの三大要素は

- ①先進国の温室効果ガスの大幅削減
 - ②途上国の削減行動
 - ③先進国から途上国への資金や技術の支援
- であるが、これらについての具体的な進展はなかった。